

東京大学での所属学部/研究科・学年(渡航開始時): 法学部4年

留学先大学: トロント大学

留学先所属学部/研究科等: 法科大学院(Faculty of Law)

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業
6.起業 7.その他()

1. 留学先大学の概要

トロント大学のロースクール、University of Toronto, Faculty of Law に留学。カナダ全体に言えることであるが、非常に様々な出身地、人種の人がいる。学部まで含めると、アジア系(特に中国系)の学生が多いようだが、ロースクールに限っていうと、予想以上に、いわゆる白人の比率が多く感じた。

アメリカと同様に、カナダは法学部がないため、ロースクールは、学部を卒業してからしか入学ができない。そのため、留学生以外は、全員すでに別の学問で学部を卒業しており、就職した経験のある人も大変多かった。様々な分野で学部を卒業している学生がおり、授業によっては、その内容に関連する NGO や政府機関で仕事をしてから入学している学生もいるため、非常に多様な視点からの意見が提供され、興味深かった。

ロースクールは大学の他の学部や大学院から非常に独立しており、ロースクールの学生同士が仲が良く、イベントも数多く開催されていたため、留学生だけでなく、現地の学生とも大変仲良くなりやすい環境であった。また、留学生はロースクール全体で、前期に15名ほど、後期は10名ほどしかおらず、履修する授業も、似通っているため、お互い助けあい、仲良くなった。

また、各授業 10~15 名ほどのクラスのため、教授がきちんと名前を覚えていてくれて、留学生を気にかけてくれるなど、教授と個人的な関係も築くことができ、大変質問や相談がしやすい環境であった。

2. 留学の動機

国際人権法を学びたい、という意味が昔から強くあり、欧米の大学の方が、国際法関連の授業、ゼミが充実していると感じたため。また、国際人権法や人道法などの分野においては、英語文献の方が遥かに発達しているため、それらの文献に容易にアクセスできる環境にも惹かれたため。

3. 留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2011]年 学部 / 修士 / 博士 [4]年の[夏]学期まで履修

②留学中の学籍: 休学 / 留学

③留学期間: 2011年 9月 ~ 2012年 5月 学部 / 修士 / 博士 [4]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2012]年 学部 / 修士 / 博士 [4]年の[夏]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[2010]年 学部 / 修士 / 博士 [3]年の[10]月頃に (行った / 行う予定)

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[90]単位 留学先で取得し、本学で認定された単位[0(届出をせず)]単位
留学後の取得(予定)単位[0]単位

⑦入学・卒業 / 修了(予定)時期: 西暦[2008]年 [4]月入学 西暦[2012]年 [9]月卒業 / 修了

⑧本学入学から卒業 / 修了までの期間: [4]年 [6]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由

その時期に、全学交換留学のプログラムが開始されたため。また、就職活動が終わっており、卒業が遅れても、就職時期を調整してもらえたため。

4. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

法学部の教務係を通じて、各種書類を受け取り、指示通りに手続きした。入学手続きに関しては、特に難しいことはなかった。

ビザの手続きなどの件で、問い合わせをしたりしたが、トロント大学の担当者の方々は、とてもフレンドリーで、反応も大変早かったため、助かった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本国籍の場合、“Study Permit” を取得する必要がある。

※私の年は、まだ東京のカナダ大使館で申請ができたが、今はすべてインターネットを通じての申請になっていると聞いています。以下、私の経験談なので、異なるところがあるかもしれません。

申請から発行までは、2週間弱で、非常にスムーズだった。

ビザ申請にあたり、学費を支払ったことの証明が必要になるが、トロント大学から送られてくる、study permit 申請用の書類で足りた。また、生活費などの支払い能力があることを示すために、貯金通帳の写しを提出するが、私の場合、両親の一筆(英語、母の署名入り)を添えて、両親の通帳の写しを提出した。

また、アメリカ経由でカナダに入国する場合、単なる乗り継ぎであっても、アメリカの ESTA(2年間有効、有料)に登録する必要があるので、時間に余裕を持って、申請しておく必要がある。カナダ滞在中にアメリカに旅行する場合にも、これに登録しておく必要があるので、アメリカ乗り継ぎでなくても、登録しておいてもいいかもしれない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし。

持病の薬を常用しているため、事前に病院で薬を多めにもらい、持参した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

トロント大学に留学する学生は全員、UHIP という保険制度に加入させられる。

オンタリオ州内のいくつかの指定の病院では、UHIP を提示すれば、無料で診療を受けられる。また、オンタリオ州内の指定されていない病院、及びカナダ全土の病院で診療を受けた場合、後から申請をすれば、費用の一部が返金される。渡航後すぐ、体調を崩す前に、近くの UHIP で無料で診断が受けられる病院の場所を確認しておくべき。

私は、渡航前、オンタリオ州の全ての病院で無料で診断が受けられる、と勘違いしていたため、これ以外の留学保険の類には加入しなかった。結果的には、UHIP だけで十分であったが、留学中に大病を患ってしまった友人の話を聞き、やはり留学保険は入っておいた方がよかった、と思った(家族が留学先に見舞いに来る場合の費用が留学保険でカバーされたりするため)。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

受験する科目を確定させたうえで、7月下旬に試験を繰り上げていただいた。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語圏での居住経験があるため、英語に関しては、特に準備は行わなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

・常備薬

・留学先で勉強する科目で、信頼している日本語の教科書がある場合、その教科書

- ・湿布
- ・ホッカイロ
- ・ラップトップ

…トロントでは本当になんでも売られているため、そんなに困ることはありません。基本的に、服などは、Forever21 や H&M といった、低価格のものをトロントやアメリカで購入し、寄付して帰ってきました。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

- ・International Human Rights Law (Jenifer Orange)
- ・International Humanitarian Law (Jenifer Orange)
- ・Canadian Migration Law (Michael Battista)
- ・Citizenship, Immigration and Globalization (Ayelet Shachar)
- ・Children and the Law (Jefferey Wilson)
- ・International Criminal Law (Andrea Russel)
- ・Law, Institutions and Development (Mariana Mota Prado, Michael Trebilcock)
- ・From Patriarchy to Equal Citizenship (Lorraine Weinrib)
- ・Human Rights as Law, Ethics and Politics (Michael Ignatieff)
- ・Media and Defamation Law (Paul Schabas, Bert Bruser)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業のスタイル

上記のうち、数個の授業を除き、ほぼすべて、一つのテーブルを囲んでの少人数授業(10~15名ほど)であった。すべて論文を読んできたことが前提となっており、それをもとにした議論形式で授業が進んでいく。授業によっては、授業の冒頭に、生徒からまとめのプレゼンテーションがなされることもあった。

予習・復習のスタイル

ロースクールでの授業は、予習が全てといっても過言ではないと思う。予習で、どれだけ論文を読みこみ、自分なりに情報を整理するかが、すべてであるように感じた。各授業、毎週100ページほどの論文を読むことが課されていた。基本的には、授業の前日に翌日の分を読みこみ、休日にはペーパー(後述)の準備をする、といった毎日であった。評価方法にもよるが、逆に復習はあまり重要ではないように思う。

評価方法

各授業必ず、participation が評価基準になっている。その他の評価は、主にペーパー(各科目20~25ページ相当)か、筆記試験の二つに分かれる。

筆記試験の場合、持ち込み可の場合が多いため、暗記力は問われず、教科書に書かれていることをどれだけ理解しているかが重要になる。ペーパーは大体的な場合、自分で授業に関連するトピックを選び、教授に相談したり、アドバイスをもらったりしながら、書きすすめていく。英語の論文を書きなれていなかったため、ペーパーには大変時間がかかり、とても苦労した。できるだけ早く自分が興味を持てるトピックを見つけ、リサーチを進めることが大切である。また、早めに下書きだけでも準備できていれば、教授に読んでもらい、フィードバックをもらう、ということも可能なため、早め早めに準備を進めることが、高評価につながる。また、図書館の司書の方は、様々な検索ツールを知り尽くしているため、こういう資料がほしい、ということがあれば、司書の方にも相談するといい。

印象に残っている授業

Citizenship, Immigration and Globalization の授業では、移民国家であるカナダの抱える問題を初め、その他の国における、移民政策の引き起こす社会問題や、倫理的問題などを学んだ。また、こういった国がどのようにして、自国にとって好ましい移民を選別し、入国を許可しているのか、そして、その結果多くの国家で、移民たちが制度上どれだけ弱い立場にたたされているかを知り、日本がこれからどのような移民政策をとるべきか、非常に考えさせられた。

International Criminal Law や、International Human Rights Law などの授業では、これらの分野を非常に細かく学ぶことができるとともに、クラスメイトがこれらの法律を自分の将来のキャリアとして強く意識していることに驚かされた。どちらのコースでも、この分野のキャリアにつくために、というセッションが授業時間外で行われ、クラスのほとんど全員が参加した。そこで、教授が「あなたが、カナダ・イギリス・アメリカといった国籍で、どうしても国際刑事裁判所やその他国際機関での職につきたいのなら、国籍を変えることを検討すべき」(こういった国々は、over-represented なため)と言ったのには驚いた。

また、人権に関わる多くの授業で、アメリカにおける死刑制度、その他刑事罰の問題が取り上げられ、聞くからにおかしい、と思うような理不尽な制度が存在していることを知り、大変興味深かった。また、奴隷制度の過去も多く取り上げられ、人権という思想がこういった過去から社会に深く根付いているのだと考えさせられた。奴隷制度や人種差別政策が当然とされていた頃から、撤廃までの判例の流れは、大変読み応えがあった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

大体、1学期4～5科目(各週1回の授業)を履修した。授業以外の時間は、18:00 頃までは、大体図書館または、自室で勉強していた。休日は、試験前になるまでは、1日3～4時間ずつくらいしか勉強していなかったように思う。

④学習・研究面でのアドバイス

授業時間が短く、自由時間が長い分、いかに自分を律することができるかが、計画的に物事を進められるかが重要。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

やまり、クラスでの議論の流れの中で、意見を言うのは、とても難しかったように思う。そのため、事前にできるだけ準備し、これを言う、と決めておくことが非常に役に立った。

7. 生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

7月下旬に、学校の寮に入れなかった旨を知らされ、その他に申しこんでいた寮もキャンセル待ちの状態だったため、とても焦った。そこから、複数の民間経営の寮などに電話してみたものの、すべてキャンセル待ちであったり、紹介状が必要であったりして、なかなか見つからなかったが、最終的に、当初申し込んでいた、Chestnut Residence に入ることができた。

Chestnut は、寮費こそ高いものの、設備はそろっているし、部屋もきれいで、食事やその他サービスも充実しているうえ、大変便利な立地のため、高いだけの価値はあったと思っている。また、私が入っていたのは、Graduate Floor だったため、ほとんど大学院生で、よく寮の苦情で聞かれる、1年生がはしゃいでいてうるさい、などといったこともなかった。また、Graduate Floor は、他の階に比べて、部屋も広かった。また、階毎に様々なイベントが開催されるので、寂しい、ということもなかった。

また、大抵の寮は、ベッドがついていても、掛け布団やシーツといったものはついていないので、トロントについたら、まず購入する必要がある。また、冬期休暇の間追い出されることが多いので、その間何をするのかも早くから考えて

おくとよい。

実際に、トロントに行ってみると、ヨーロッパなどからの留学生は、トロントに着いてから、アパートなどを探した、という人も結構いた。寮費は、自分で部屋を借りるより、確かに高くつくが、カナダ人の友達がたくさんでき、カナダ流の楽しみなど色々と経験できる点で、個人的には寮をおすすめします。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

トロントの街

トロントは、カナダで第一位の経済都市だけあって、何でもそろそろ、便利な街だった。その一方で、非常に街が狭いため、どこへ行くにも大抵徒歩で行く事ができ、楽だった。また、治安もよく、ホームレスなどもほとんどいないため、夜 20:00 頃までは、女性一人で歩いても、心配はなかった。また、移民が多い国だけあって、英語が話せない人にも大変優しく、街中で困っていると、大抵誰かが声をかけてくれるなど、人の優しさにとっても助けられた。

食事

基本的に、寮の食事で済ませていたが、たまに人と顔を合わせたくない時や、部屋でくつろぎながら食べたい、という場合には、近くのテイクアウトを購入して、食べていた。様々な国籍の人いるため、外食も様々な国籍の料理があり、予想していたより、おいしかった。

お金の管理方法

Citibank の口座を作り、現地の ATM で引き出していた。また、最初にトラベラーズチェックで、15 万円分ほど持っていく、Royal Bank of Canada の学生用口座に入金した。

基本的に、トロント大学のキャンパス内にあるのは、RBC の ATM なので、口座を作るなら、ここの口座が一番よいと思う。現地について、パスポートを持参すれば、すぐ作ることができる。また、Chestnut の玄関にも RBC の ATM があり、すぐ近くに支店もあるので、非常に便利。留学生が口座を作りに来るのは、先方も慣れているので、口座開設も非常にスムーズだった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常によいが、日本よりは確実に悪いので、荷物から目を離さない、などの最低限の注意はもちろん必要。

医療機関については、保険の項を参照。心身の健康管理では、あまり自分を追い込まないこと。私は、留学生活は一度しかないのだから、と初期の頃は、できるだけ日本語全般(日本の友達との skype、日本語の新聞や動画など)から距離をとろうとしていたが、やはり徐々にづらくなっていったので、できるだけ現地の人と交流しつつ、たまに息抜きも必要だと痛感した。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

毎月約 8 万円(初期投資(プリンターなど)、教科書代、アメリカへの旅行など、なんだかんだで毎月お金が必要だったが、外食などをおさえれば、もっと安くで毎月おさえられる)。

・留学に要した費用総額とその内訳

210 万円

内、寮費 120 万円(前述の通り、寮の中でも高い方だと思う)

生活費 64 万円

航空費 25 万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

80万円(長島雅則奨学基金、返金無)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

9月に学年が始まると、様々な学生団体のオリエンテーション期間があるので、色々なものに顔を出してみるのをおすすめ。日本の学生団体とはまったく異なる運営方法なので、興味深い。また、ロースクールには、課外活動として、様々なリサーチプロジェクトや、クリニック(東大法学部でいう法律相談所のようなもの)もあり、興味があるものがある場合には、参加してみると勉強になる。一部、留学生不可のものもあるが、実際に責任者に連絡すると、許可してくれる場合もある。また、ロースクールで、昼休みなどに、学外から学者や実務家の方を招いて行われる講義も非常におすすめ。

トロントは、アメリカ東海岸へ近いので、学期の途中にある Reading Week と呼ばれる1週間の休暇などには、深夜バスに乗って、NY、Boston、Washington D.C. などへ行った。深夜バスは固定料金ではなく、予約時期によって、値段が10ドル~130ドルほどまで変動するので、安い時期に予約するとすごく安くでアメリカまで行くことができる。

8. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

トロント大学の CIE という部局が、様々な留学生サポートを行っている。英語のクラスも提供しているが、すぐ埋まってしまうので、興味がある人は、早めに登録するとよい。ロースクール自体は、特に何も提供していないが、人数が少ない分、教授や教務係の対応も非常に柔軟なので、まずは相談することが重要。私は、2学期目の試験期間中に、突如日本に帰国しなければならなくなり、ペーパーを期限通りに提出できなくなってしまったが、その時も、非常に柔軟に対応してくれた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

トロント大学には、多数の図書館があり、それぞれ雰囲気や開館時間が異なるので、自分のお気に入りを探すことができ、楽しい。ロースクールは、ほぼ全域でインターネットが使えるので、授業中は、ほとんどの人がパソコンでノートを取りつつ、わからないことはその場で調べる、というかたちをとっていた。

9. 留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

就職活動を終えてから渡航したため、回答を差し控えます。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界: コンサルティング)

6.起業(分野:) 7.その他()

10. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

まず、勉強の面で、自分がずっとしたかった勉強ばかりをできたこと、そしてその分野を将来の仕事として真剣に考えている人とともに学ぶことができたことが、一番の収穫でした。また、カナダやアメリカだけでなく、様々な国の判例を読む機会があり、それらの判例を通して、それぞれの社会が抱える問題を考える、という視点が非常に新鮮で、勉強になりました。また、周りがすべて大学院生、出身地も多様、ということもあり、授業中に得られるクラスメイトからの伊意見がとても参考になりました。

②留学後の予定

2012年9月に卒業し、民間企業へ就職しますが、ロースクールでの交換留学を得て、就職後大学院留学を強く意識するようになりました。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学をどれほど充実したものにするかは、自分自身にかかっています。授業時間が短く、日本での人間関係や課外活動から解放される部分、自由時間がたくさんあります。一方で、インターネットが発達し、海外にいながら、日本を離れていないんじゃないかと思えるほど、日本に近い生活を送ることもできます。留学先でしかできないことは、何なのか、自分は何をしにきているのか、という点を確認しながら、毎日生活をしないと、留学期間はすぐに終わってしまいます。ただ、あまり自分を追い込みすぎると、精神的に不安定にもなりやすいと思うので、適宜息抜きをしつつ、楽しんで下さい!!!

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名: 全学覚書に基づく交換留学)

所属学部/研究科・学年(留学時): 工学系研究科航空宇宙工学専攻修士2年

留学先大学・学部/研究科等: University of Toronto / Department of Computer Science

留学期間: 2011年9月 ~ 2012年4月

卒業・修了後の就職希望先: 研究職

1. 留学先大学の概要

コンピューターサイエンスでは北米でも有数の教授陣を持つ。研究活動も盛ん。

大学全体のことは大きすぎてよく知りません。

2. 留学の動機

語学力も含めて一度外国で自分の力量を試してみたかった。

変化のない東大生活から一度離れてみたかった。

漠然とした憧れ。

3. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

以下の文章はどうせ伝わらないと思いますが、東京大学本部は 1.面接の結果を本人に通知しない。2.入学手続き締め切りの当日に手続きの内容と締め切りを通知する。3.申請資料の請求を当該大学にお願いしてもやっておきますというだけで実際にはやらない。ので面接の結果如何に関わらず本部への問い合わせは執拗にしましょう。また UofT への受け入れが決まった後は Center for International Experience に直接メールを送るとよいです。僕の場合は本部に2週間お願いしてもらえなかった受け入れ許可書のコピーを翌日メールで返送してもらえました。

(※本部国際交流課注:本部国際交流課では学生の海外派遣の推進に向けた取り組みを強化し、募集から派遣までの方法に改善を加えておりますので現在ではこのようなことはありません。学内選考後も学生と密に連絡を取りながら、確実に留学先大学との手続きを進めております。ただし、参加に必要な諸手続きは自らの責任において行うことが基本ですので、事前に十分確認し、不明な点があれば内容に応じ本部国際交流課や所属部局の担当部署・留学先大学へご連絡ください。)

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

カナダは大使館に提出した書類が受理されると PDF で手続き資料が来て、それを到着後の Immigration で提示してその場でビザ (Study Permit) を発行してもらう仕組みです。手続きが簡素すぎて不安になりますが大丈夫です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

個人の都合次第だと思います。僕は特にしていません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

旅行保険に加入して行きましたが、大学でも Health Insurance Plan に8ヶ月分約 400ドルで加入しなければならないので、旅行保険はなくてもいいです。ない人の方が多かったです。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

僕の場合留学で修了年度が伸びるので、留学前は休学しました。単位互換はこれから行なう予定ですので詳しいことは分かりませんが、工学部の場合成績書さえ出せばいいような話になっています。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

現地で語学力が上がることはあまりありません。聞くと読むと話すことは伸びますが、論文を書く技量等はいきなり上昇するものではないので常に準備は怠らないように。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ノートパソコンが常時バックアップできるように外付け HDD などを持っておくとよいです。本や参考書は日本から持って行っても使いません。重いだけです。

Mac を使用している人は国が違ってもアップルの直営店があれば修理受付が可能ですが、ソニー等日本製のパソコンを使っていると万が一壊れた場合修理に最低3週間など要するそうです。期末時期には気をつけましょう。

海外送金を仲介する銀行口座を開設しておきましょう。Citibank のインターネット口座が楽です。

クレジットカードの海外でのカード使用限度額を確認して必要に応じて増額しておきましょう。

4. 留學生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

アパートに住むことの利点は寮よりも安い・広いことです。隣人との騒音問題も僕の場合はありませんでしたが、これは場所によります。寮で隣がうるさいこともアパートでそのような場合もあります。

欠点は大学から遠い・友達が作りにくい・日本から見つけることが大変ということです。

僕は元々現地に友達がいたので見学と手続きを行なってもらいました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

2011年のカナダは暖冬だったので大して問題はありませんでした。雪国では24時間態勢で空調が作動しているので快適です。僕は歩いて20分のところに住んでいました。自転車(大学で定期貸し出しもやってる?)かスケートボードがあれば便利です。アパートの支払いに銀行口座が必要だったので開設しました。どのように開設するのか分かりませんでしたが大学近くの銀行に行って 'I'd like to open a bank account.' と言えばだいたいやってくれます。日本からの送金には Plus interbank network のマークの ATM カードを使えば便利です。僕は Citibank のインターネット口座を開設してそちらに入金し現地で ATM カードで直接出勤していました。お金を引き出すたびに1ドルか2ドル程度の手数料がとられることと一度に300ドルまでしかおろせない(Scotiabank の ATM なら日本の様に金額が指定可能だったような)ので累積すると手数料がそこそこ取られますが、今は円高なのと海外送金をするにしても3000円以上の手数料が取られるので、大損にはなりません。クレジットカードなら日本円から落とされるので(外貨手数料は別途つきますが)両替の手数料がかからないで済みます

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

基本的に治安はよいはずですが、6月に街の真ん中にあるショッピングモール(Eaton Center)で発砲事件が在り死傷者が出ました。また在トロント大使館のメールマガジンによりますと、法人を狙った強盗(銃を持っていた)などもあったそうなので辺鄙なところにはいかない方が良いでしょう。トロントの北の方はギャングがいるとも聞きます。

留学前の自分の想像と実際の留学は違ったものになると思います。とまどわないで現地で思わぬ状況に出くわしたら自分なりの目標を再び掲げてみてください。楽しいのが、楽しいだけが留学ではないです。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

月々の家賃 : \$635

食費 : \$200 程度?

インターネット料金 : \$40 (これは高い部類です。)

携帯電話料金 : \$100 (これも高い方です。多くの留学生は安いプリペイドで\$40で済ましています。僕は SIM フリー iPhone が欲しかったのでこうなりました。)

・留学に要した費用総額とその内訳

上記を8倍してください。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

JASSO:月8万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
とくになし

⑦留学中の就職活動等への対策(行った場合)

多くの方は11月のポストンキャリアフォーラムに参加します。日米バイリンガルの人のための就職活動の場です。あなたが優秀ならば外資系企業はその日のうちに採用の判断を下します。それなりに準備が大変なので学業とかぶった場合は決断をしましょう。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

- Introduction to Artificial Intelligence
- Introduction to Machine Learning
- Decision Making Under Uncertainty
- Advanced Machine Learning

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

機械学習と人工知能について初歩から始まり、最新の研究論文を独学で読めるレベルまで学びました。また大学院の授業はほぼ全てコースプロジェクトという自分で行なうリサーチペーパーが課されます。研究とは何かということ(flavor と表現されました)に触れるために行なわれるのですが、授業内容の理解以外に計画を立案する能力、計画を管理する能力が必要とされますし、それが身に付きます。なめてかかると痛い目に合いますが、全力で取り組みれば学べることが多いです。

‘Do not underestimate the time you need to write a good paper.’ 実験やシミュレーションも大変ですが言葉に表現することの大変さを侮ってはなりません。外国語ならなおさらです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

2クラス/学期

2時間の授業+1時間のチュートリアル/1授業1週間

僕の場合は東大での分野と違うこともあって、毎日6時間ほどは授業の勉強に充てていました。

④学習・研究面でのアドバイス

日本の先生と違って分からなくても理不尽に怒ったりしないので授業中は恐れなくて質問をしましょう。自分が分からないところは他の人も分からない箇所です。

ただの授業でも要求レベルは高いです。学期末課題に学術誌に提出できるレベルを要求されました。大変でしたがやりがいがありましたし、それだけ学ぶことが多かったです。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

トロント大学は大学院生には academic writing の口座を開講しています。人によっては大いに活用しているようですが僕は利用しませんでした。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

問題があれば CIE に直接話をしにいくとよいです。その場で力を貸してくれます。日本みたいに検討しておくとは言われないのいいところですが、メールのような意思疎通だと平気で後回し/無視されてしまいます。要は自分から訴えに行きましょう。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は憂鬱な場所ですが一番長い時間お世話になると思います。中国人が平気でご飯を食べていたり迷惑この上ないこともあります。自分のお気に入りの場所を作りましょう。

ジムは充実しています。無料で使えるので積極的に活用すると良いです。

食堂は寮の食堂がありますが不味いです。自炊を頑張れば料理の腕が上がるという話が出身国関係なく留学生の間では共通認識になります。

7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学では研究論文の締め切りがこれまでにない重圧となっていました。研究の内容が固まるにつれて引き返せない状況になり、締め切りをクリアするには目前の難題を解きただ前に進む他ありません。考えなければ答えは出ませんが考えれば突破口が見つかるものです。何かを自分の力でやり通すことの経験そしてそれをやり切ったという自信が今の僕にはあります。同時に自分でテーマを考え研究の意義・方法・大筋を考えて実行に移すというプロジェクトの流れを経験したことで、現在東大に戻ってからの研究活動も積極的に進められています。また、困難の中で身につけた知識は手足のように自在に使い／応用できるようになります。

②留学後の予定

博士課程に進学予定です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

日本でいい大学に行き、4年で就職していい会社に行くという正規ルートを一度離れてみると、色々な社会的慣習という制約から解放されます。これが留学の一つの重大な意義だと思います。留学の短くて長いようでやはり短い期間は、今までの慣習から切り離され、人に流されるのではなく自分が生きたいと思える道を考える機会です。留学中の僕は労働許可がなく、奨学金で生活はある程度保証され、留学先の社会とも大きく関わることはなく、自分がしなければならないことが自分の興味のある学問だけという状況で、人々の交流を傍観することが多々ありました。そこで最も考えたことが、僕はこの社会と同関わり、自分の価値を見出していくのだろうということです。そしてその答えの一つが研究となりました。僕はこの留学を通して自分を解放し、強い意志を持つ様になったと思います。みなさんも本の少しでも興味があるならば是非応募してください。